

カッティングエッジ

CUTTING EDGE

72期中間事業のご報告

平成22年4月1日～平成22年9月30日



DISCO

Kiru - Kezuru - Migaku Technologies

Kiru, Kezuru, Migaku

「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術によって遠い科学を身近な快適につなぐ」

3つのコア技術を深めることで、ディスコは産業と暮らしに貢献していきます。



① 高度なKiru・Kezuru・Migaku技術とは

「切る」「削る」「磨く」は、古代から脈々と培われてきた人類に欠かせない技術です。ディスコはこの普遍的な技術を深化させ、またこの技術領域における世界のオンリーワンでありたいと考えています。「Kiru」「Kezuru」「Migaku」とローマ字表記しているのは、ディスコの技術が世界標準となり、日本語でそのまま通用するようなレベルを目指すという思いが込められているからです。

② 遠い科学を身近な快適につなぐとは

科学は日進月歩しています。しかしどれほど技術が進歩しようともそれだけでは社会の進歩や人類の幸せに役立つとは限りません。

ディスコの技術によってそんな遠い科学を人々の暮らしの豊かさや快適さに帰結させていきたいという思いをこめています。

③ ディスコが追い求める成長とは

企業の軸として据えた社会的使命に則り、あらゆるステークホルダとの価値交換を通じ、長期にわたる成長ストーリーを発信し、また実現していく。ディスコはそんな企業でありたいと考えています。

急激な市場ニーズの高まりに対応し、 過去最高の半期売上高となりました



2010年度上半期の世界経済は、地域により差があるものの全体としては緩やかな回復基調を辿りました。半導体業界においては、中国をはじめとした新興国市場の成長と共にスマートフォンやタブレットPCといった新しいアプリケーションが世界的なヒット商品となるなど、半導体出荷

数は急速に増加しました。このような需要拡大を受け、アジア地域のメーカを中心に積極的な設備投資が行われました。

当社グループはこのような好況な事業環境に合わせ、生産能力を拡充し積極的な販売活動を行ってまいりました。

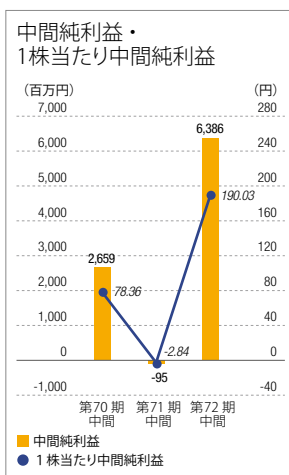
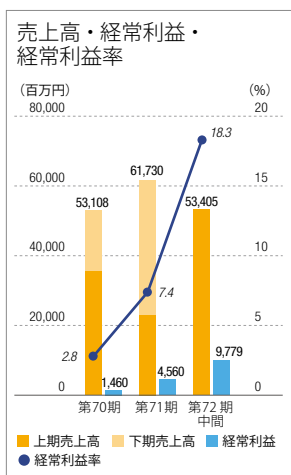
精密加工装置においてはレーザーなどのLED向け製品の出荷が堅調に推移したことに加え、半導体量産時に使用されるダイシングソーの売上が大幅に伸長しました。また、半導体生産活動が活発であったことから、精密加工ツールの出荷数量も高水準で推移しました。これらの結果、2010年度上期の売上高は、半期ベースで過去最高となりました。

これからも高度なKiru・Kezuru・Migaku技術の研究開発に注力し、市場ニーズに応える高付加価値製品の開発とトータルソリューションの提供に積極的に取り組んでまいります。そして、事業の長期的な成長を目指すと同時に、当社ミッションの実現およびステークホルダーとの価値交換性の向上を図ってまいります。株主の皆さまからの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月

代表取締役社長 **関家一馬**

財務ハイライト



当期の概況

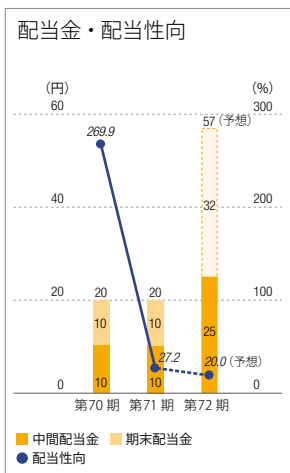
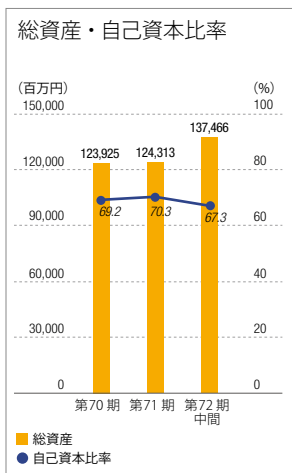
当社グループの主力事業である精密加工システム事業では、精密切断装置(ダイシングソー)の出荷が旺盛となり、精密研削装置(グラインダ)の売上も堅調な推移となりました。用途別で見ると、LED向け・メモリ向けをはじめ半導体ICやパッケージシングュレーション向けなど、ほぼ全ての主力機種の販売数が増加しました。出荷先ではアジア地域の伸びが凄まじく、特に台湾、韓国及び中国への販売の割合が増加してきております。精密加工ツールは、円高の影響を受けたものの顧客の半導体生産活動が活発だったことから、売上高は非常に高水準で推移しました。

これらの結果、当中間期の売上高は過去最高を更新し、営業利益は販売管理費の増加(主に研究開発費)などの影響があったものの、高い水準となりました。

以上により、当中間期の業績は売上高534億5百万円(前年同期比131.6%増)、営業利益96億71百万円(前年同期比98億50百万円の改善)、経常利益97億79百万円(同100億62百万円の改善)、中間期純利益63億86百万円(同64億81百万円の改善)となりました。

財政状態について

当中間期末の総資産は、1,374億66百万円(昨年度末比131億53百万円増)となりました。これは売上高の増加にともない、受取手形・売掛金や現預金、たな卸し資産などが増加したことによるものです。負債合計は、441億38百万円(昨年度末比79億17百万円増)となりました。これは借入金30億円を返済しているものの、買掛金や未払法人税などが大きく増加



したことなどによるものです。この結果、総資産は増加しましたが、自己資本比率は67.3% (昨年度末比3.0ポイント減)となりました。

配当について

当社は業績に連動した配当を実施することを基本方針とし、配当性向は連結当期純利益の20%としておりますが、利益水準に関わらず安定配当として最低限年間20円を維持いたします。

当中間期末の配当につきましては、11月11日に発表しました通期業績予想を修正したことから当社の配当政策に基き、25円とさせていただきます。また、期末の配当につきましては32円を予想しております。

通期の連結業績予想

半導体市場では、過熱傾向にあったメーカ各社の設備投資活動に一服感が見られます。これに伴いアジア地域向けの製品出荷数量の伸びは鈍化するものの、全体としては比較的高い水準で落ち着く見通しです。また、円高の進む為替レートは前提を85円から80円へ変更しています。このような市場の状況を勘案した結果、平成23年3月期の連結業績は95億円の当期純利益を見込んでいます。

(金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成23年3月期	98,000	14,500	15,700	9,500	282.67円

アジア市場で躍進するディスコと それを支える進化するものづくり

- 海外現地法人の本社
- 支店・営業所
- 代理店



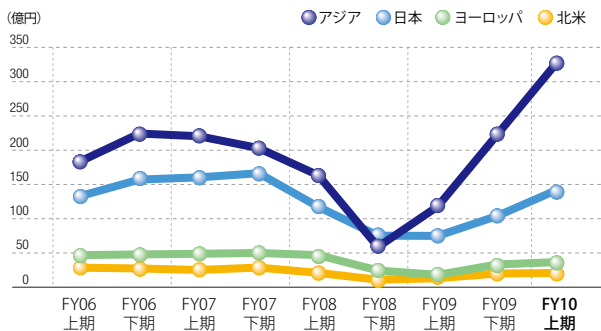
旺盛な半導体需要に応え、
アジア地域での売上は
力強い伸びとなりました。

半導体の生産能力が急速に拡大しているアジア地域向けの上期売上高は、329億円となり、前年度下期と比べ大幅に増加しました。これは全売上高の61.7%にあたり、アジア地域向けの半期売上高では過去最高を更新する結果となりました。LEDメーカーの投資継続に加え、大手半導体メーカーからの生産委託が進む中で、韓国・台湾のサブコン各社が大規模な設備増強を行ったことが主な要因となりました。

このような状況下、ディスコではお客さまのKiru・Kezuru・Migaku

ニーズにあった高品質なソリューションの提供に努め、付加価値の高いサービスを行ってきました。今後さらなる市場拡大が見込まれるアジア地域において、製品の保守などを手掛けるサービス拠点を台湾に新設したほか、既存サービス拠点の人員も増員するなど、サービスの質と量をさらに高めていきます。

半期ベースの地域別売上高推移



市場ニーズに対応するための
ユニークな取り組みをご紹介します。

デジタル屋台

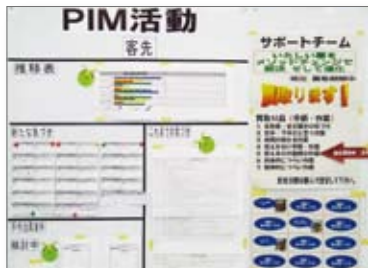
デジタル屋台での作業風景

ディスコが主力事業を展開している半導体業界は需要変動の振幅が大きく、特に装置の出荷量は短期間に大きく変動します。このため、ディスコではその変化に柔軟に対応するための様々な取り組みを行っています。そのひとつが「デジタル屋台」です。これは、スキルを問わず誰でも作業台上のパソコンに表示した手順で作業を進めれば、品質のばらつきなく装置に組み込むユニットを組み立てることが出来るものです。デジタル屋台の導入により、高度なスキルを持つスタッフは特殊仕様対応や品質を左右する最終調整に専念できるようになり、これまで生産のボトルネックとなりがちであった人員不足を解消し、装置需要の急増にも迅速に対応できる仕組みを構築できました。



PIM活動

2003年から全社に展開しているPIM活動は、生産部門においても進化の大きな原動力となっています。PIMでは、実現したい「あるべき姿」を描き、その実現度合いを測定するための指標を設定します。指標を意識しながら業務を行うことにより、非効率や不安定といった「改善の余地」に気づき、メソッドチェンジ(やり方・方法の変更)を実施していきます。製造部門では、数多くのメソッドチェンジを積み重ねていくことで、リードタイムを大幅に短縮する等多くの成果をあげています。優れた取り組み事例は、社内報や海外拠点幹部も参加する全社会議にて紹介され、ディスコ全体の進化に役立てられています。



PIM活動の掲示物

た取り組み事例は、社内報や海外拠点幹部も参加する全社会議にて紹介され、ディスコ全体の進化に役立てられています。

* PIM: Performance Innovation Managementの略。ディスコ独自のマネジメント手法。

会社情報および株式の状況 (2010年9月30日現在)

会社概要

本社所在地	東京都大田区大森北二丁目13番11号
創業年月日	1937年5月5日
設立年月日	1940年3月2日
資本金	14,517百万円
従業員数	単体1,705名 連結2,575名
主な事業内容	精密加工装置 <ul style="list-style-type: none"> ● 製造および販売 ● メンテナンスサービス ● オペレーションやメンテナンスの研修サービス ● 解体リサイクル事業 ● リースおよび中古品売買 精密加工ツール ● 製造および販売 精密部品の有償加工サービス

役員

代表取締役会長	溝呂木 齊	常勤監査役	巳亦 力
代表取締役社長	関家 一馬		高柳 忠雄
常務取締役	関家 圭三	監査役	浅海 芳久
取締役	関家 英之		黒沼 忠彦
	梶山 啓一	執行役員	荒井 一尚
	田村 隆夫		吉永 晃

株式概要

上場市場	東京証券取引所 市場第一部(証券コード6146)
発行済株式総数	34,004,418株
株主数	16,003名
大株主	日本トラスティ・サービス信託銀行(株) : 3,941千株 / 11.59% 日本マスタートラスト信託銀行(株) : 2,113千株 / 6.21% (株)ダイイチ企業 : 1,998千株 / 5.88% (株)ダイイチホールディングス : 1,998千株 / 5.88% (株)OctagonLab : 1,704千株 / 5.01% 関家 臣二 : 1,371千株 / 4.03% (株)オレンジコーラル : 1,146千株 / 3.37% 関家 圭三 : 794千株 / 2.34% 関家 一馬 : 608千株 / 1.79% (株)ブルーオーシャン : 592千株 / 1.74%

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金	
受領株主確定日	3月31日
中間配当金	
受領株主確定日	9月30日
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

株式会社 ディスコ

143-8580
 東京都大田区大森北 2-13-11
<http://www.disco.jp/>

